

地域連携軸の展開について（図表）

I. 地域連携軸の定義等

1. 地域連携軸の考え方、意義	1
2. 「戦略推進指針」に掲げられた具体的方針	2
3. 「戦略推進指針」における地域連携軸のイメージ	3
4. 主な地域連携軸構想について	4
5. 主な地域連携軸構想の対象地域の人口伸び率	5

II. これまでの地域連携軸の取組みの評価と課題

1. 地域連携軸構想評価調査結果	
評価調査について	6
参加度合い、連携・交流の深化	7
構想の内容	8
今後の取組み、新たな参加	9
2. 個別構想に対するヒアリング結果の概要	
宮城・山形地域連携軸構想	10
南とうほく SUN プラン	11
福井・滋賀・三重地域連携軸構想	12
西日本中央連携軸構想	13
3. T・TAT 地域連携軸調査結果のポイント	
T・TAT 地域連携軸構想について	14
T・TAT 地域における今後の取組み	15
スローライフマップについて	16

地域連携軸について

『21世紀の国土のグランドデザイン』に示されている4つの戦略の1つ。

全国各地域の市町村などが、都道府県境を越えるなど広域にわたり連携することにより、軸上の連なりからなる地域連携のまとまりを形成し、全国土に展開するもの。

一極一軸型の国土構造を4つの国土軸（北東国土軸、日本海国土軸、太平洋新国土軸、西日本国土軸）からなる多軸型へと転換する端緒を開くため、国土政策上の戦略として、形成し、全国土に展開するもの。

複数の都市等地域がそれぞれの個性と主体性を維持、確立しつつ、共通の目的意識を持って地域の資源、機能、基盤を相互に活用・共有化し、補完的・協調的活動を行うという「地域連携」の取組を、交通、情報通信基盤の下で広域的に進める。

そしてこのことを通じて、相互の役割分担の下で多様な高次機能の充実を図り、東京を頂点とする「中枢」とそれへの「依存」という関係にある都市間の階層構造を、「自立」と相互補完」に基づくことにより水平的なネットワーク構造へと転換することを目指す。

「地域連携軸」とはこのような狙いをもつ取組や政策が行われるための広域的な空間のまとまりであり、『21世紀の国土のグランドデザイン』戦略推進指針』では主なものとして31の構想が取り上げられている。

「21世紀の国土のグランドデザイン」戦略推進指針に掲げられた具体的方針

ねらい

都市圏間の連携で地域の高次機能を充実し、相互利用
全国土で高次機能を利用できる環境の実現
選択可能性の高い暮らしの実現と新しい価値の創出

地域連携軸の目指すべき姿

比較的小規模の地方都市圏間の連携、大都市周辺地域
における環状ないし放射状方向等の連携、地方の中核
拠点都市圏形成に向けての比較的規模の大きい都市圏
等の連携を推進
上記の比較的近接した都市圏等からなる地域連携軸が
複数連なって国土を一部縦貫あるいは横断する骨幹的
連携軸を形成。こうした地域連携軸は長期的には国土
軸の形成に寄与、あるいは複数の国土軸を相互に補完
、連携

施策立案の視点

機能分担の明確化と地域の資源や基盤の有効活用のため
のプランづくり
民間主体の参加と連携
単一の地方公共団体での「フルセット主義」からの脱却
等

地域の取り組む施策例

1. 民間主体が中心となった連携が望まれる分野

- ・企業が専門的な能力を有する他地域の人材、企業との連携により市場ニーズにあった製品等を開発

- ・観光資源・施設のネットワーク化による広域観光ルートの形成 等

2. 民間主体中心の連携と行政による環境整備が望まれる分野

- ・地域間の役割分担の下で空港等の交通拠点やそれらを連絡する道路の効率的整備と有効活用
- ・歴史遺産や自然環境の広域的な保全・管理やネットワーク化 等

3. 行政が地域連携の主体としての役割を担うとともに民間主体の活動を誘導すべき分野

- ・大学等の教育機関、社会教育施設、民間教育事業者の広域的連携による遠隔講座の実施など、高度かつ多様な生涯教育サービスの提供
- ・複数の医療機関の広域的連携と役割分担による高度医療サービスの提供 等

4. 行政による機能分担と相互補完に基づく公共施設等の高質化と有効活用

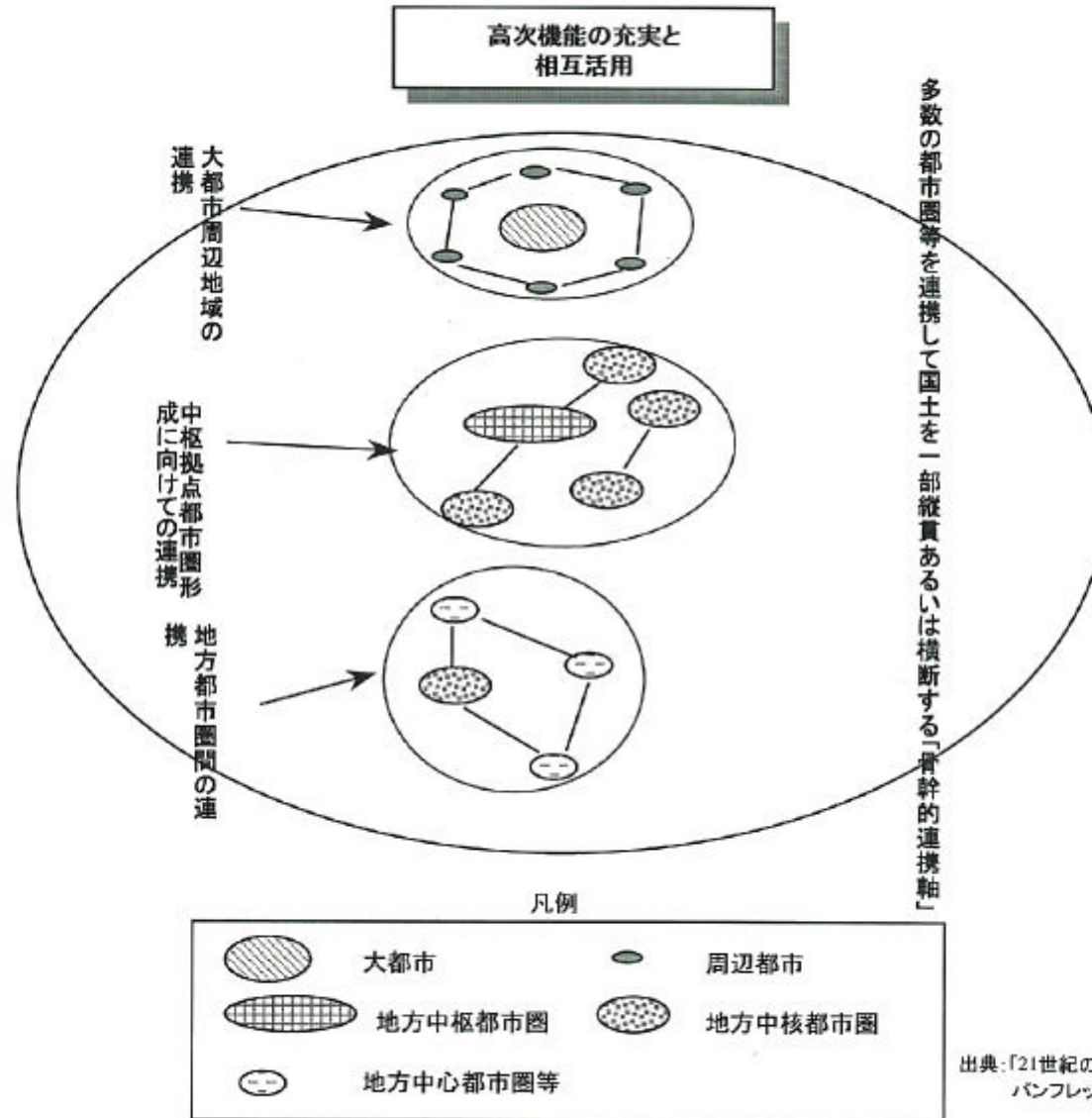
- ・複数の地方公共団体間で質の高い公共施設等の共同整備、分担整備

国の施策の方向

交通・情報通信基盤等の基幹的な基盤の整備
個別の基盤投資の着手にあたり、費用対効果を含む総合的な事業評価を行う際には、地域連携の取組によって期待される効果を始め幅広い効果を勘案することが重要であり、それに向けて検討
高次機能の充実に向けての地域間の広域的連携を促す施策の充実

出典：21世紀の国土のグランドデザイン「戦略推進指針」パンフレット

地域連携軸のイメージ



出典：「21世紀の国土のグランドデザイン」戦略推進指針
パンフレット

国土軸と地域連携軸のイメージ図



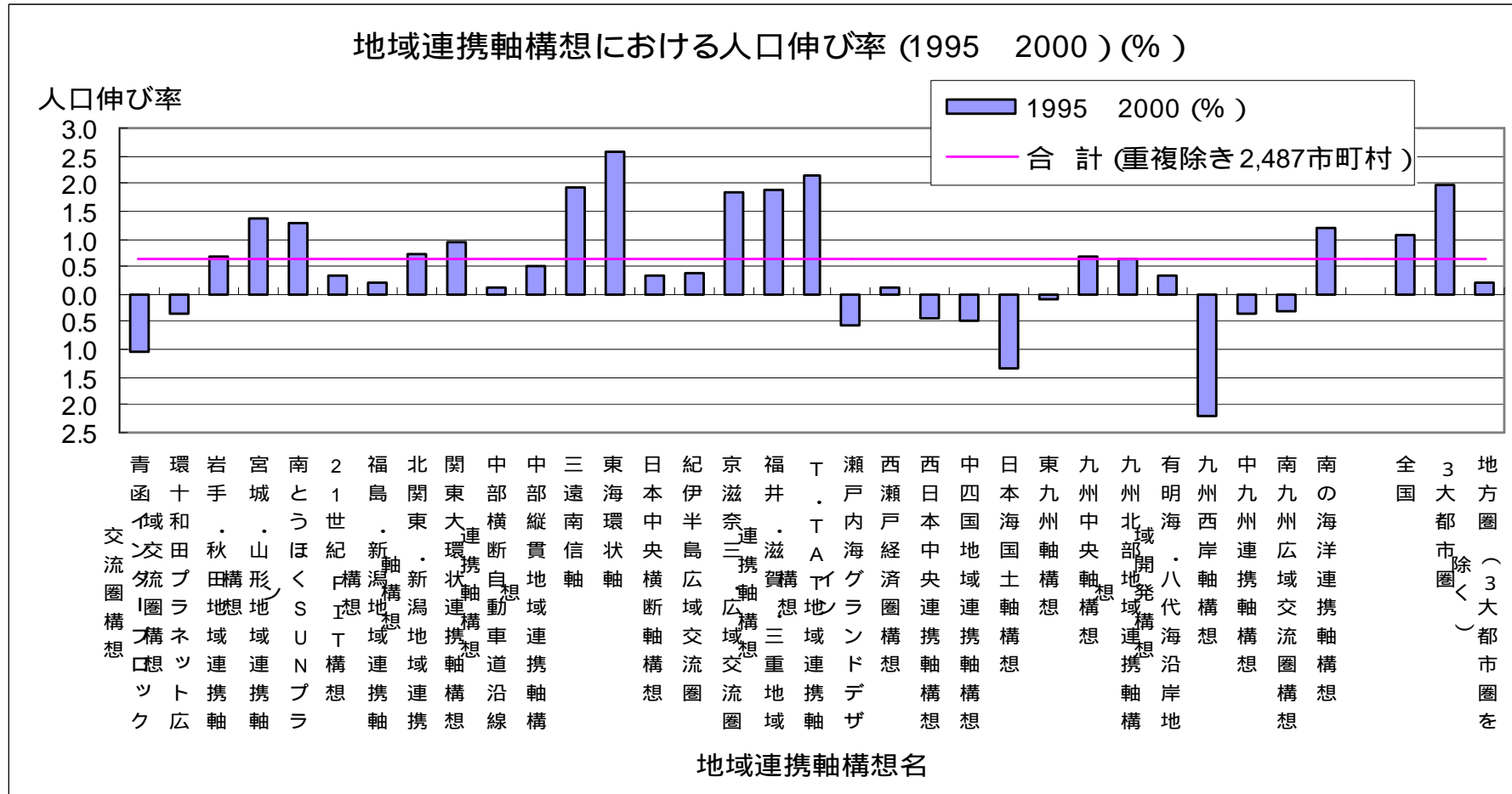
(注) 上記は、国土軸及び地域連携軸構想のイメージ図であり、その範囲を厳密に示しているものではない。

主な「地域連携軸構想」の対象地域の規模(人口、面積)

	地域連携軸構想」の名	人口(千人) (2000年)	面積(km ²)
1	青函インターブロック交流圏構想	1,992	16,172
2	環十和田プラネット広域交流圏構想	2,326	14,674
3	岩手・秋田地域連携軸	657	5,385
4	宮城・山形地域連携軸構想	2,935	11,428
5	南とうほくSUNプラン	3,386	11,233
6	21世紀FIT構想	2,260	9,451
7	福島・新潟地域連携軸構想	2,051	8,947
8	北関東・新潟地域連携軸構想	3,837	6,151
9	関東大環状連携軸構想	13,886	44,695
10	中部横断自動車道沿線連携軸構想	2,350	7,181
11	中部縦貫地域連携軸構想	7,221	37,022
12	三遠南信軸	2,050	5,729
13	東海環状軸	7,532	10,281
14	日本中央横断軸構想	4,555	9,602
15	紀伊半島広域交流圏	4,370	14,189
16	京滋奈三・広域交流圏	4,720	5,325
17	福井・滋賀・三重地域連携軸構想	4,029	13,979
18	T・TAT地域連携軸構想	3,985	11,233
19	瀬戸内海グランドデザイン	9,698	33,391
20	西瀬戸経済圏構想	14,121	46,403
21	西日本中央連携軸構想	5,987	30,448
22	中四国地域連携軸構想	5,947	27,961
23	日本海国土軸構想	2,903	16,324
24	東九州軸構想	4,349	13,956
25	九州中央軸構想	9,538	23,995
26	九州北部地域連携軸構想	7,409	11,497
27	有明海・八代海沿岸地域開発構想	11,054	28,086
28	九州西岸軸構想	507	2,083
29	中九州連携軸構想	3,080	13,740
30	南九州広域交流圏構想	4,816	24,322
31	南の海洋連携軸構想	3,104	11,458
	平均値	5,053	16,979

出典：平成12年国勢調査(総務省)を基に国土交通省国土計画局作成。
 ここであげた「地域連携軸構想」は、『21世紀の国土のグランドデザイン』戦略推進指針(平成11年6月)において主なものとして取り上げられたもの。

地域連携軸構想の対象地域の人口伸び率 (1995年から2000年までの伸び率)は、全国平均より低いが、地方圏平均よりは高い。



(出典) 総務省「国勢調査報告」をもとに国土交通省国土計画局作成。
 (注) ここであげた地方連携軸構想は、「21世紀の国土のグランドデザイン」戦略推進指針であげられている構想である(31地域連携軸構想)。詳しくは、国土交通省ホームページ国土計画関係参照。

評価調査について

地域連携軸構想評価調査

- 現時点での構想に対する評価を知るために平成14年11月に実施。
- 31連携軸構想に対する評価調査。
- 評価調査を行う団体は、構想に参加している地方公共団体（都道府県・市町村）
- 延べ1,020団体に配布し、796団体から回答あり。（回収率78.0%）

問1 「この地域連携軸構想に積極的に参加してますか。」

肯定 52.5%、否定 47.3%

問2 「この地域連携軸構想によって連携・交流が深まりましたか。」

肯定 43.1%、否定 56.7%

問3 「上記地域連携軸構想によって、促進されたあるいは深まった内容」
（回答が多かった上位3つ）

「新たな観光ルートの形成」（65.9%）

「地域産業の発展機会」（38.8%）

「地域における情報化の促進」（35.0%）

問4 「地域連携軸構想を推進して貴団体のメリットはありましたか。」

肯定 46.6%、否定 52.5%

問5 「この地域連携軸構想に今後より積極的に参加する予定ですか。」

肯定 57.8%、否定 41.0%

問6 「この地域連携軸構想の今後の発展に期待しますか。」

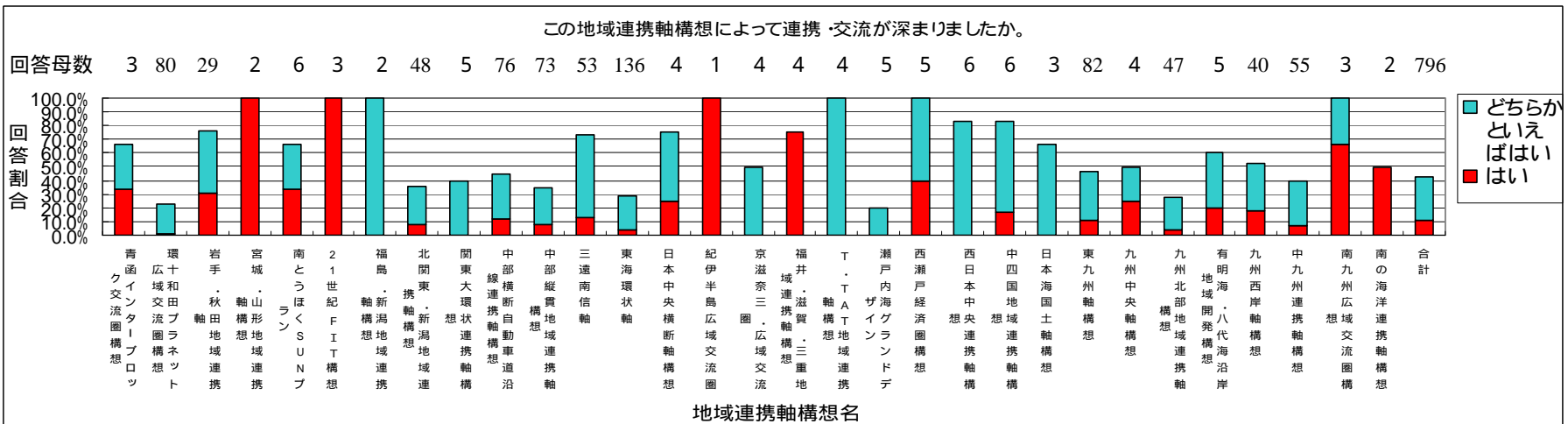
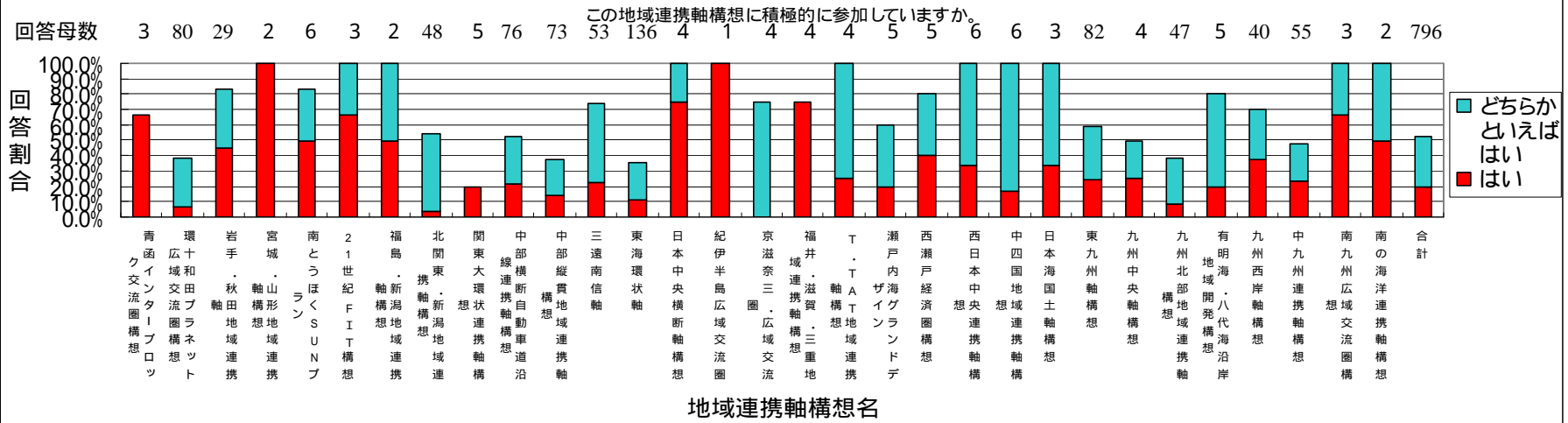
肯定 75.6%、否定 23.3%

問7 「別の地域連携軸構想に新たに参加する予定はありますか。」

肯定 14.5%、否定 83.9%

参加度合い、連携・交流の深化

構想への参加度合い、連携・交流の深化の度合いについての参加主体による評価にはばらつきがみられる。これは、連携のための道路整備など関連するインフラの整備状況などにも影響されているものと考えられる。

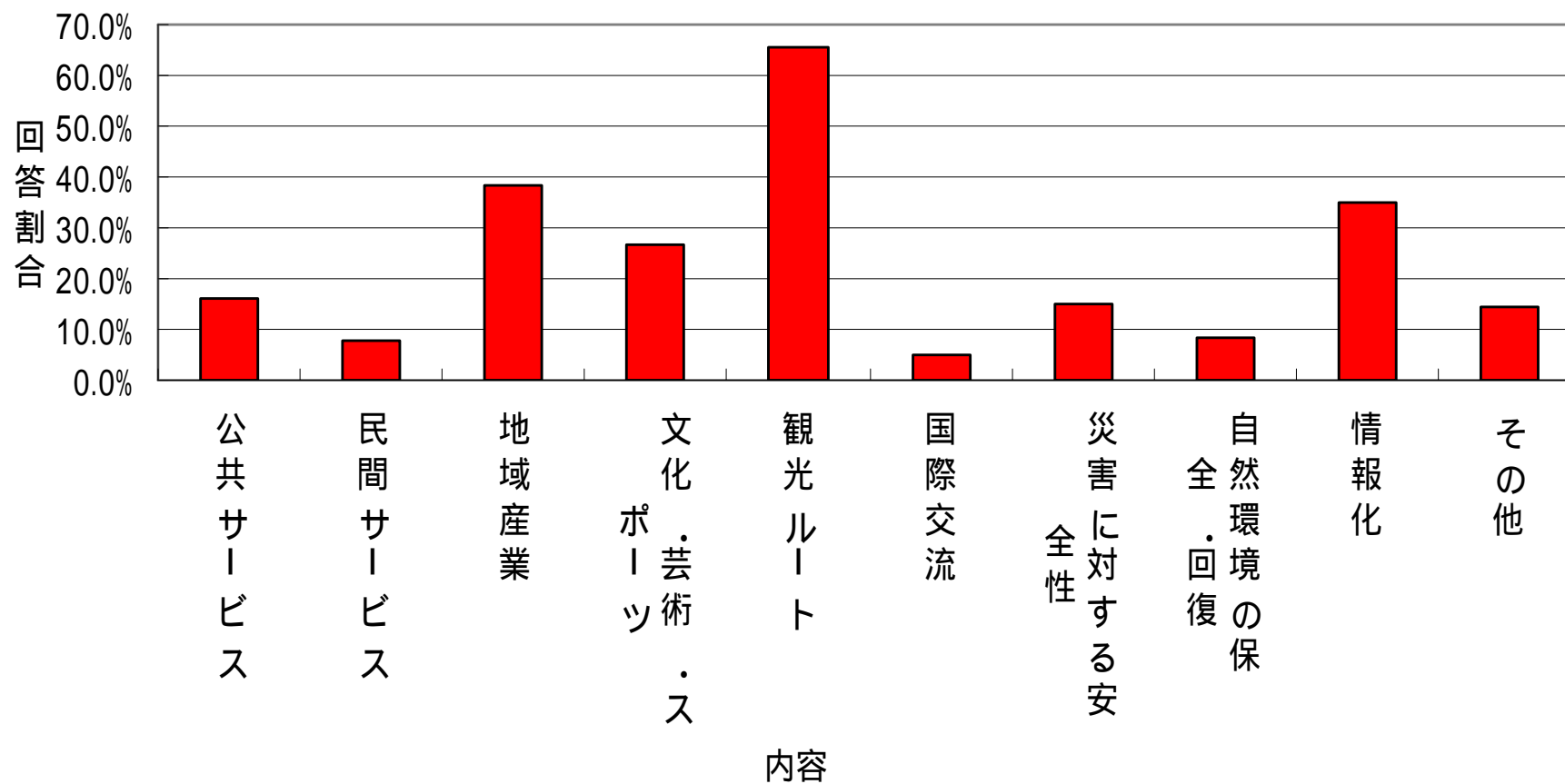


(注) 国土交通省国土計画局がおこなった「地域連携軸構想に関する評価調査」(平成14年11月実施)をもとに国土交通省国土計画局作成。「地域連携軸構想に関する評価調査」は、「21世紀の国土のグランドデザイン」戦略推進指針であげられている31地域連携軸構想に参加している地方公共団体に対し、アンケート調査を行ったもの。(延べ1020団体に配布、796団体が回答(回収率78.0%)詳しくは、国土交通省ホームページ国土計画関係参照。

構想の内容

参加主体の評価において、構想により最も促進されたあるいは深まった内容は、観光ルートの整備である。

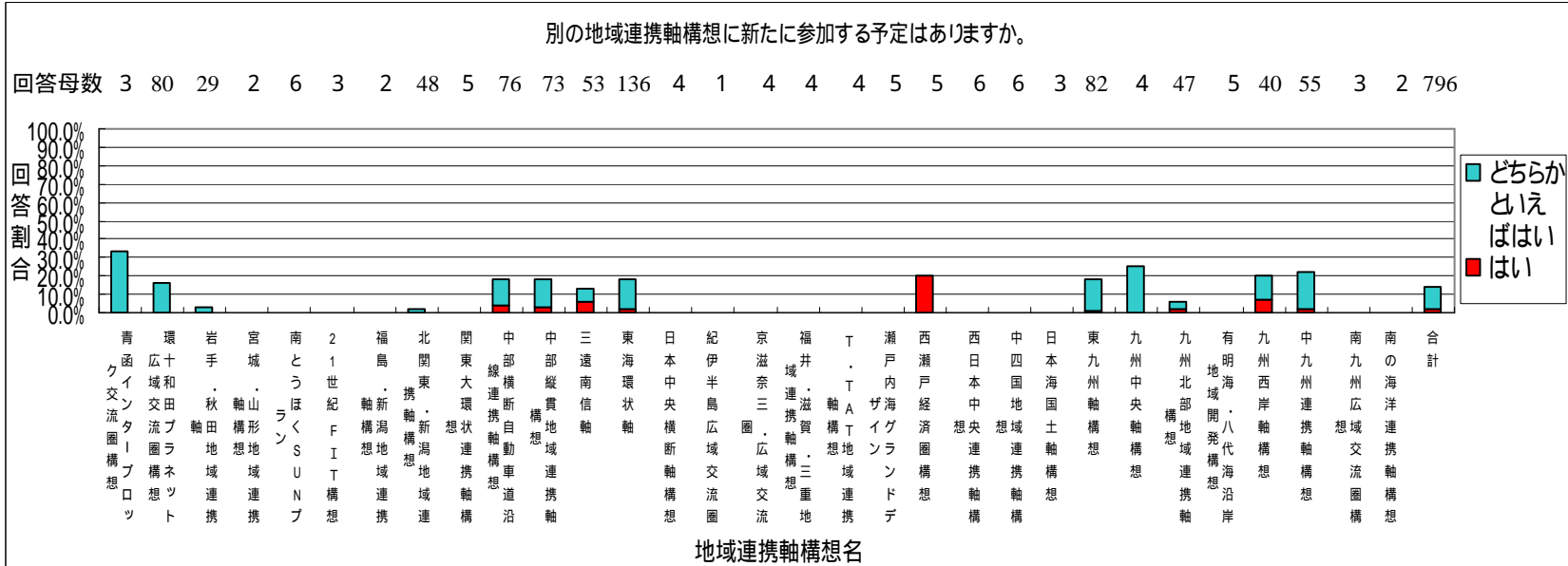
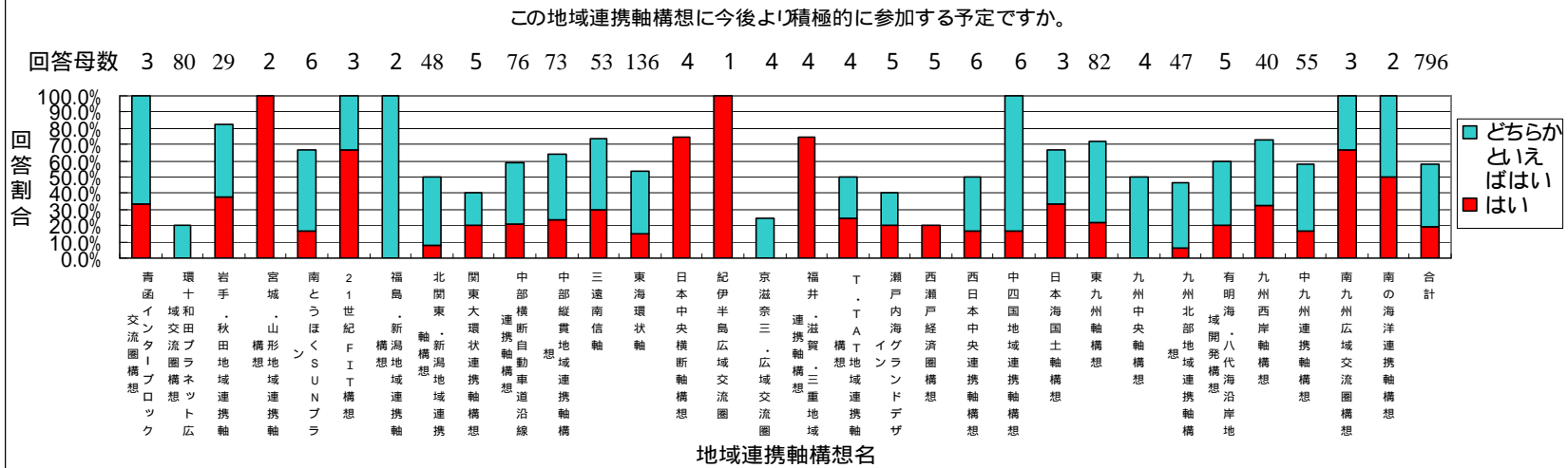
地域連携軸構想によって、促進されたあるいは深まった内容



(注) 国土交通省国土計画局がおこなった「地域連携軸構想に関する評価調査」(平成14年11月実施)をもとに国土交通省国土計画局作成。

今後の取組み、新たな参加

参加主体の評価において、現在参加している構想に関しては今後も積極的に参加していく傾向がみられるが、新たな構想の参加に対しては否定的である。



(注) 国土交通省国土計画局がおこなった「地域連携軸構想に関する評価調査」(平成14年11月実施)をもとに国土交通省国土計画局作成。

宮城・山形地域連携軸構想



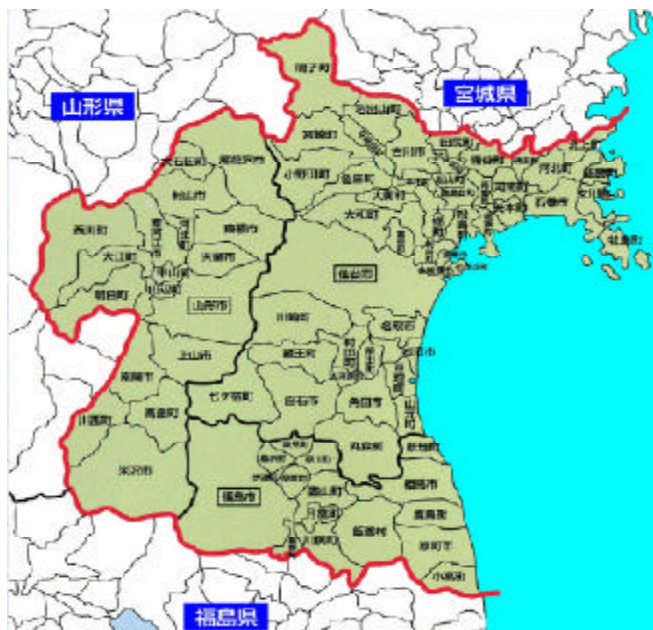
【現在の取組状況】

- ・近畿・九州地方からの修学旅行誘致促進 :パンフレットの作成・配布、誘致説明会の実施・修学旅行先等の調査など。
- ・宮城・山形修学旅行相互交流促進 :両県の修学旅行や体験学習等を促進させるため、学校関係者や社会教育施設関係者等の交流を図りつつ、地域資源マップを作成し情報発信するとともに、説明会等を開催しながら相互交流を促進。

【今後の課題とされている主な点】

- ・推進団体である「宮城・山形地域連携推進会議」について、達成度合いの把握や、目標に関する合意形成が課題。
- ・構想を実現するために必要な、圏域市町村や、企業、住民の主体的な取組にまで至っていない。

南とほく(SUNプラン(南東北中枢広域都市圏構想))



【現在の取組状況】

観光モデルコースの策定 旅行情報誌への特集記事の掲載などの普及・啓発活動の実施、これにより、圏域内の歴史文化資源のPRや南東北地域内の人々の交流促進に貢献。

・広域連携 交流促進支援(平成14年度創設) 広域的な交流・連携の活動資金に対する助成とアドバイザー派遣。NPO活動や地域づくりに取り組む市民団体に対する助成の実施。

【今後の課題とされている主な点】

・構想に関する認識が住民・市町村レベルの職員に浸透していない場合も散見され、構想の一層の啓発が課題。

・構想を実現するために必要な圏域内市町村、民間団体等の主体的な取組にまで至っていない。

福井・滋賀・三重地域連携軸構想 (現 :日本まんなか共和国)

平成12年度より岐阜県を加え、圏域を「日本まんなか共和国」として、各種連携事業を展開。



【現在の取組状況】

主な活動内容

各県の自然・環境・文化等を活用した地域全体の魅力アップ。

イベントの開催、ホームページ等による観光情報の発信。

圏域内県間の施策の共有(共同研究等)。

職員の政策形成能力の向上。(相互に各県の先進的分野を学ぶ。)

4県連携事業について、現在11分野(文化、技術交流、海外連携、観光、環境、県立病院、職員研修、陶磁器の交流(産業連携)、4県の女性による交流事業、「IT戦略への連携した対応」、雇用確保対策への対応)について、それぞれ4県の事業担当課が連携・協力し、事業を推進。

【今後の課題とされている主な点】

連携事業が少しマンネリ化してきている状況があることや、実施事業が多岐にわたりすぎている部分もあることから、今後スクラップ・アンド・ビルトが必要。

今後の市町村合併の進展を見極めつつ、かつ、都道府県のあり方についての議論を進めた上で、構想の継続について判断する必要。

西日本中央連携軸構想



【現在の取組状況】

- ・「交流の集い」を原則毎年開催 :平成14年度は、講演会、交流事例発表、各県特産クイズイベント、麺イベントを実施 (連携軸関係者や一般人が参加)。
- ・市町村や民間団体などが構想圏域内において、県境を越える他県の団体と交流を始める場合に、その経費の一部を助成し、草の根交流・連携の拡大を推進。(例 :クラブチームのサッカー大会への助成)

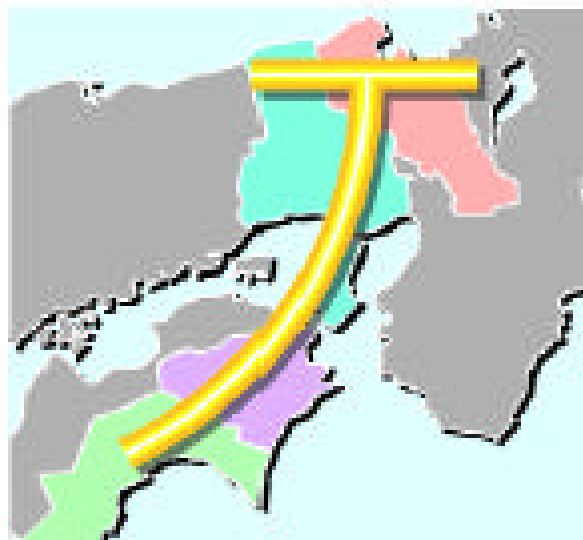
【今後の課題とされている主な点】

- ・事務局のあり方について、連携事業を円滑・着実に実施するためには、現在のように構想対象団体が1年毎に持ち回りでやる方法がいいのか、1つの団体に統一するのがいいのか議論あり。(前者は、活動が軌道に乗ったときに事務局が変わってしまうことで中途半端に終了してしまう問題や、年によって活動の活発さが変化してしまう問題。後者は、事務局以外の県の、構想に対するモチベーションが下がってしまう問題。)
- ・構想発足時のプロジェクトについて、現在の状況を把握し、今後に向けて既存プロジェクトの改廃等について検討する予定。

T・TAT地域連携軸構想について

地域連携軸上の一般国道(ローカル国道)沿線における地域資源発掘型観光振興及びテーマルートに関する調査～T・TAT地域連携軸をモデルとして～
(平成14年度新全国総合開発計画推進調査) (当局から兵庫県への委託調査)

T・TAT地域連携軸を例にとり、府県を越えた広域的連携手法を開発することを目的とした調査。



近畿圏では、東西軸の発展に比較して南北軸イメージが弱く、その振興策が遅れている。

T・TAT地域連携軸(左図参照)の形成による南北方向の連携を進展させる必要。

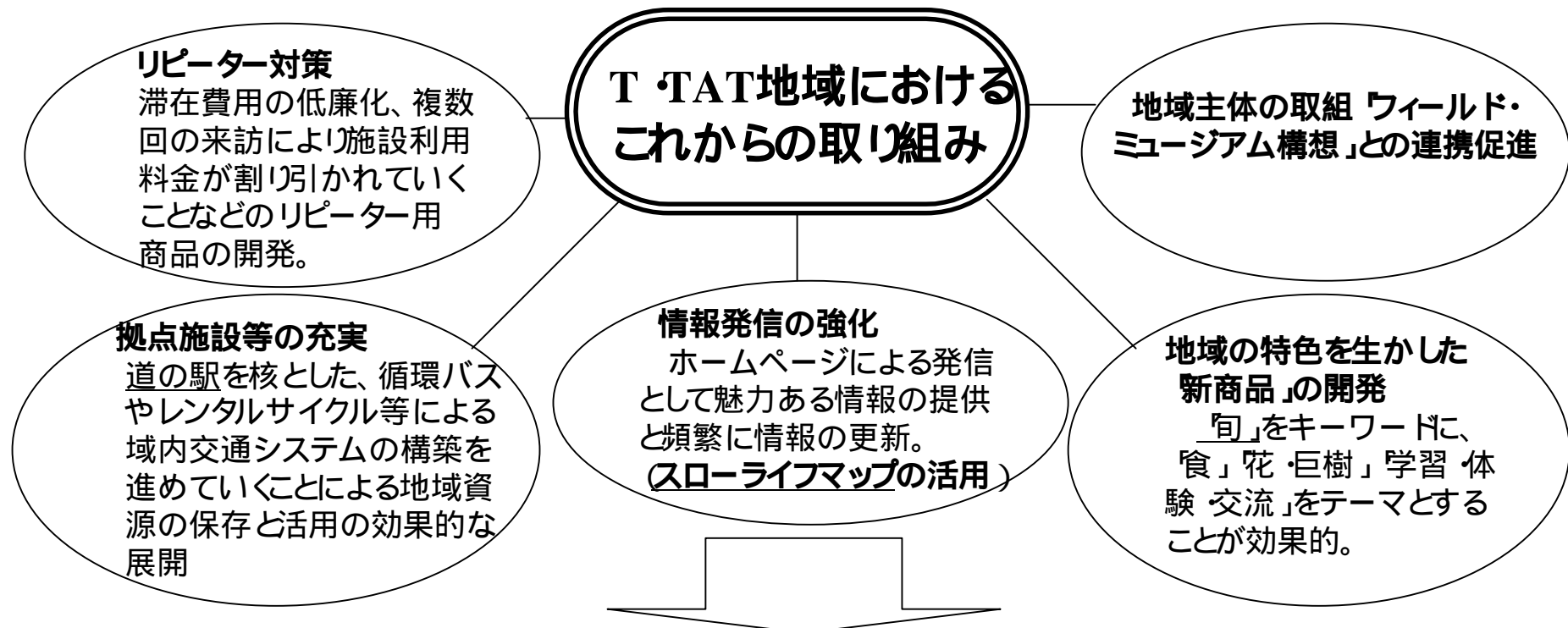


T・TATの由来は、丹後(京都府)・但馬(兵庫県)地域から、阿波(徳島県)・土佐(高知県)を結ぶ地域連携軸であるところから、それぞれの「T」「T」「A」「T」であるとともに、想定しているルートの形状が「T」の形であり、また、「TAT」が英語で「編む」、「つくる」という意味があるところから、日本の国土にT字の地域連携軸をつくらうという思いを込めたもの。

同連携軸上において、以下の点を念頭においた、近畿圏から四国南東部まで含めた南北軸の地域観光振興策の作成・実施等を行った。

- 一般国道(ローカル国道)沿いの地域を対象
- 既存の地域資源の活用
- 地方公共団体・NPO・地元住民・観光客などの多様な主体の参加

T・TAT地域における今後の取組み



スローライフマップ (<http://map.t-tat.or.jp/>)

・・・地図情報と地図上の各スポット情報を融合し、地域固有の観光情報等を閲覧・検索できるインターネットシステム。
T・TAT地域連携軸上の自然・歴史・文化などの地域固有資源を生かした観光を成立させ、観光振興と地域経済の活性化を推進することができる。

例えば、気軽にドライブや小旅行に出かけたいと思ったときに、家庭のパソコン等から希望するローカル観光情報を簡単に入手することができる。旅の途中でも、国道沿いにある「道の駅」等に設置しているインターネットに接続された情報端末から、行き先場所や他のローカル観光情報が確認できる。

また、観光名所に足を向けるだけでなく、休憩場所や食事処を探すなど、楽しい旅を支援する情報を満載したスローライフマップを利用することにより、地域独自の歴史や自然、食文化などに触れる機会がより一層増し、観光を中心とした地域のさまざまな分野への経済効果が期待できる。

スローライフマップについて

スローライフマップ 画面遷移

